

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット1)

Table with 2 columns: Field Name (e.g., 事業所番号, 法人名) and Value (e.g., 0171000607, 株式会社健康会).

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_2015\\_022\\_kan=true&JigyosyoCd=0171000607-00&PrefCd=01&VersionCd=022](http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kan=true&JigyosyoCd=0171000607-00&PrefCd=01&VersionCd=022)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: Field Name (e.g., 評価機関名, 所在地) and Value (e.g., 企業組合グループ・ダイナミックス総合研究所 介保調査部).

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

“入居者様の人格を尊重した質の高い介護と、高い倫理観を基にした介護育成”を掲げ、全職員が心ひとつに取り組んでいます。...

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、江別市の東方向にあり、JR江別駅から徒歩圏内に位置する2階建て2ユニットのグループホームである。隣接して消防署や有料老人ホームがあり、避難訓練やイベントの共催など地域との連携に努めている。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: Item No., Item Description, Achievement Level (e.g., ほぼ全ての利用者の), and Achievement Level (e.g., ほぼ全ての家族と).

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目につく場所に“理念”を貼り出しており、職員個々に常に意識できるようにしている。 またカンファレンス毎に“理念唱和”をしている。	「和顔愛語」を目標にし、基本理念とともに事業所内に掲示し、常に意識して日々のケアに努めている。毎月のカンファレンスでも確認し、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域公園までの散歩等で、地域の方と挨拶を交わす等の交流がある。 焼き物市など地域のお祭りへ出かけた。	市内グループホームの交流会やオレンジランえっへ参加したり、敬老会やクリスマス会にはボランティアや幼稚園児の来訪があり、特に事業所主催の夏祭りは和太鼓演奏や縁日があり家族や地域の方を含め50名位参加する盛大なイベントとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座を、㈱健康会江別エリアグループホーム主催で開催し、地域の方、ご家族様の参加を募った。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	避難訓練、行事等の報告・予告を常に行っている。参加を募ったり、質問・意見をいただき、サービス向上に努めた。 プロジェクトを使い、普段の様子を見ていただいた。	町内会長、包括職員、隣接の施設職員、家族の参加があり2ヶ月に1度開催している。事業所からの報告のほか、活発に意見交換が行われサービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政連絡事項はメール配信にて迅速に対応している。地域包括センター宛に毎月の広報誌を郵送し様子をお伝えし、また運営推進会議に参加していただき、協力関係を築くよう取り組んでいる。	日頃から密に連絡を取り、包括職員には運営推進会議に参加してもらい、事業所の取り組みを伝えて協力関係を築くよう務めている。法人内のグループホームと共催で認知症サポーター養成講座を開催し、市内の管理者会議に参加依頼するなど連携して取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	早く気付き転倒を回避するためにセンサーの設置をしている方がいる。充分なご家族様への説明と定期的なアセスメントで理解をいただいている。施錠は夜間帯のみとしている。スピーチロックへの取り組みは、昨年からは継続し話し合いを持っている。	外部の研修会にも積極的に参加し、その後は伝達講習を行い、職員全体で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、センサー使用時には家族とよく話し合い、理解を得られるように努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	権利擁護研修へ代表職員が参加し研修報告書、カンファレンスでの発表で周知に努めている。高齢者虐待事件のニュースに際し、職員全員にレポート提出してもらいケアの振り返りの材料とした。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を必要とする入居者がいないため、身近なものではなく活用には至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	当ホームの入退去はなく当ホームとの契約に関する説明は無かったが、訪問歯科、訪問マッサージなど外部業者利用の際、契約に関し、間に立ち十分な説明を行った。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望意見には都度対応し、迅速に改善が図れるよう努めている。玄関には意見箱を設置し、また運営推進会議では意見要望の集約に努めている。	担当者が、個々の利用者の様子をお手紙にしたものとホーム便り「わいわい通信」を毎月送付して家族に報告している。また、家族が訪問した際には 意見を言いやすい雰囲気づくりに留意しており、意見箱も設置している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	合同カンファレンスや個人面談にて職員より業務内容や行事・各委員会に関する意見を聴取している。職員間での意見交換も活発に行い運営に反映させている。	ユニット会議や合同会議等が定期的に行われており、ラダー評価も含め個人面談を年2回実施している。また、法人内に安全・感染症対策・接遇の各委員会があり、職員の意見や提案を聞く機会を設け、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休日希望申請を出しやすい状況を作っている。ラダー評価についての個人面談を行い、評価の視点を示すことで「やりがいや向上心を持てるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケアの力量不足を都度教え合えるよう働きかけている。外部研修の情報を提供し参加できる体制を作るよう努めている。また、社内の研修会も多くの職員が参加できるように配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	市内グループホームのネットワークがあり、職員交流の場がある。イベントの案内もあり、職員に周知し参加しやすい雰囲気づくりに努めた。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規入居はなかったが、管理者、計画作成担当者が代わり、ご家族様から改めて入居者様の成育歴等を伺い、何が楽しみか安心か、ご本人と共通話題を持てるよう努めた。1F2Fの職員の行き来も増え顔なじみ関係も徐々に構築されている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者、計画作成担当者が代わり、不安・要望・ご指摘を頂きながら関係づくりに努めた。事あるごとに、電話・メールを使い連絡を取らせていただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	看取り介護への移行があり、ご本人に何が必要か、ご家族の思いを踏まえ、職員間でチームとしての在り方、対応を話し合った。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者様それぞれの出来ること探しに努め、一緒に家事を行った。入居者様からは「いつでも、出来ることはするから」との言葉が聞け、職員も入居者様も、次の出来ること探しへの励みになった。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	認知症サポーター養成講座を企画しご家族様にも案内した。お盆正月にはご家族で過ごす時間をと伝えさせていただいた。認知症を理解していただき共に支える一因となって頂く事を望んでいる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、傾聴ボランティア、訪問医療など、馴染みの方々の来設の際、ゆったりと関わりを持てるように支援している。	家族と馴染みの美容室や自宅へ行く人もいる。知人が気軽に訪ねてくれる雰囲気づくりに努めて、関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テレビ前にソファを設置し、お茶会などで関わりを持っていただいている。入居者様同士の会話から不安になる方には、職員が間に入り談話を楽しめるよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	この一年間、契約終了の方はいない。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の記録、申し送りにおいて、ご本人の動向・言葉から思いを推察し、意に沿えるよう努めている。また月1回のカンファレンスにおいても情報共有し本人本位のケアは何か、活発に意見交換し検討している。	日頃の様子や会話・表情・行動から個々の意向や希望の把握に努め、職員で共有している。さらに充実したケアサービスを提供するために打ち合わせを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様から改めて入居者様の生活歴等を伺い、誰が見てもわかりやすいフェイスシートを整備した。改めて入居者様の経過を知ることができた方もいた。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の記録、申し送りを基に、職員間で意見交換をし、現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様お一人に対し2人の担当者を決めているが、カンファレンスにおいて職員全員でモニタリングを行い、ご家族様、医療関係からもご意見をいただき、介護計画へ反映できるよう図っている。	本人・家族の意向をもとに医療関係者のアドバイスも参考に担当者で検討して、月に1度のカンファレンスでその人らしい暮らしの実現に向けた介護計画をチームで作成している。定期的にモニタリングを行い、必要に応じて見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録、申し送りシート、介護支援経過記録、受診記録等で情報共有に努めている。変化時には、検証記録を活用し、介護計画に見直し生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他科受診は基本ご家族様に対応していただくが、ご家族様が無理な時は職員の同行で受診していただいた。ご家族様の理解の下、全入居者様に訪問歯科検診を受けていただき必要な方には治療を受けていただいている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア(民謡・傾聴)の紹介を社会福祉協議会へ依頼した。 町内会の自動車整備工場から、市内自動車協会で車椅子無料整備の情報をいただいた。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	おおあさクリニックとの連携は24時間体制で確立されている。状態に合わせて、紹介状を出してくださり専門医との連携にも支障はない。他科を主治医とされる方には受診時バイタル等の情報提供を行っている。	希望を聞いて、個々の病状に合わせて受診できるように支援している。複数の医療機関と提携し、月2回協力医の訪問診療がある。専門医には家族が付き添い、情報を共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	おおあさクリニックから週1回のナースラウンドがあり、おおあさクリニックを主治医としていない方への対応もしていただいている、細かいことも相談できる。24時間体制で電話連絡を取れるようになっており、適切なアドバイスで受診へ繋がっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	関係機関のおおさクリニック/ソーシャルワーカーの尽力をいただき、医療連携室とのスムーズな連携が図れている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	おおさクリニックから紹介状をいただき専門医への受診の際同行させていただいた。状況をご家族様と確認し合い、ご家族様の思いを踏まえ看取り介護への移行となり、ご本人に何が必要か、職員間でチームとしての在り方、対応方針を話し合い支援に取り組んでいる。	重度化にかかわる対応の指針を入居時に説明して、その都度話し合い、方針を決めている。看取りについては、本人・家族の意向を踏まえて、医療機関と連携してチームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	災害時訓練(連絡網訓練・火災時避難訓練・消火訓練・水害時避難訓練)を実施した。訓練報告書を基にカンファレンスで事故発生時の対応を確認した。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時において(株)健康会の協力の下での避難先の確認をした。備蓄品の充実、避難時緊急時バックの購入等、カンファレンスで周知している。	年2回消防署の指示の下、避難の仕方を確認しながら、マニュアルも整備して避難訓練を行っている。災害時には、備蓄・備品も準備しており、また、法人の協力を受ける体制は出来ている。	火災の定期的な避難訓練と法人の江別地区事業所の合同で水害の避難訓練を行っているが、消防署の指導の他に地域の方や家族の参加協力による訓練への工夫を期待したい。
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の言葉を傾聴し、個性に応じ寄り添うケアを心掛けている。スピーチロックにならない言葉かけを意識し対応している。カンファレンス毎に言葉の使い方の検証を行っている。	法人内設置の接遇委員会を中心に接遇研修を行い、事例をもとに声かけや話し方を学び確認して、一人ひとりの個性に応じたケアの実践に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉・表情から思いを推し量るよう努め、表出しやすい対応を心掛けている。対話の中で押しつけ・制止・禁止にならないように留意している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	その人らしい暮らしを最優先に、体調等を考慮しながら意向を伺い支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族様の協力も得て、季節の衣替えをしている。清潔にも留意し支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1階2階の合同行事において、オードブルや鍋を準備し、ご自身で選び食すことができるよう支援した。調理の段階で野菜の皮むき、盛り付け、食後の食器拭きなどに参加していただいている。	利用者の好みや苦手なものを踏まえたメニューを工夫し、時には、どこでもラーメンに来てもらい出来立てラーメンのお昼だったり、利用者と職員と一緒に餃子を作ったりして楽しむことのできる支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせ摂取量、形態、禁食に配慮している。体調不良の際は、医師からの指示により対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声掛けを行っている。ご自身でのブラッシング後、磨き直しをさせていただき清潔を保てるように配慮している。訪問歯科からの指導もいただき支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ご自身からのトイレ訴えには速やかに対応している。訴えの無い方に対しては、生活表を用い、個々の排泄パターンの把握に努め、トイレへのお誘い声掛けをしている。失禁時には自尊心に配慮し、保清させていただく。	生活表を参考にし、個々の排泄パターンを把握して、トイレでの排泄を大切にしながら声かけ、誘導を行っている。夜間のみポータブルトイレを使用している方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜、オリゴ糖、乳製品などの提供で個々にあった働きかけを行っている。職員間で、排泄表を用い排泄習慣の把握に努め、腹満等を観察し個々の情報と、トイレに座ることの大切さを共有し支援に繋げている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	午後からの入浴をお願いしているが、体調を考慮し、入浴を楽しんでいただいている。行事、職員数により入浴時間の変更や中止することがあるが、週2回の入浴は確保できるよう調整させていただいている。	週2回、希望や体調に合わせて楽しんで入浴出来るよう支援している。清潔を保つよう臨機応変に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に合わせて、休息を勧めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬確認票を用い、服用するまでに5人の目で確認がなされている。服用後も空袋の確認を怠らないようにしている。薬事書は職員がすぐに確認できる場所設置している。服薬後の症状の変化は見落とすことなく、主治医へ報告し指示をいただいている。		

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	実施状況	実施状況
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	軽作業(資源回収品をまとめる、ウエス切り、食器拭き等)に参加していただいている。1階の作業のみならず2階からの依頼にも応じていただいている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	敷地内での外気浴、外出行事、散歩、買い物地域のお祭りなど外出支援に努めている。ご家族様の協力を得られる方は都度対応させていただいている。	事業所の前庭でお茶会をする工夫や家族の協力を得て、なるべく戸外へ出かけられるよう支援している。また、アースドリームで小動物と触れ合いを体験したり、南幌でアイスを食べたり普段行けないような場所にも出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段は手元に現金をお持ちいただくことはないが、外出行事でソフトクリームを買った際、職員と一緒に支払いをしていただいた。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状など届いた郵便はご家族に確認しご本人にお渡ししているが、ご自身から手紙を書かれる方はおらず対応していない。電話を掛けた方には子機で対応させていただいている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	飾りつけから季節感を感じ、和んでいただけるよう工夫している。TVの音量、まぶしい時にはカーテンを引くなど配慮している。	照明や音に細心の注意を払い、居心地よく落ち着いて生活できるようになっている。観葉植物を置いたり、町内会報誌が張り出されたコーナーがあったり、季節を感じられるような飾りつけをして明るい雰囲気になるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お一人で外を眺めたり、馴染みの時代劇ドラマを皆さんで見られたり、共有空間で各々のお好きな場所でゆったりと過ごされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具を配置し、それぞれに、ご家族の写真などで飾られている。ケアを優先する場合は、ご本人、ご家族様の了承をいただき模様替えをさせていただいている。	作り付けのクローゼットがあり、使い慣れた家具などを持ち込んでいる。思い出の写真や自分の作品を飾ったり、利用者や相談して模様替えをしたりして、居室内で心地よく過ごせるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面台の下、トイレ内手すり、家具の角等危険個所には保護材を使用し安全を確保し、自立した生活を支援している。安全を確保するための情報共有は都度記録、申し送りで行われている。		